

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11853

研究課題名(和文) 地域における観光人材戦略の構築と理論化

研究課題名(英文) Construction and theorization of the talented personnel who promote tourism strategy in the area

研究代表者

片山 明久 (KATAYAMA, Akihisa)

京都文教大学・総合社会学部・准教授

研究者番号：10625990

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：まずJTBグループ、奈良県大学連合インターンシップ、和歌山大学観光学部、大阪国際大学に対する調査を行い、企業が求める観光人材像の把握とそれに対する観光人材教育の工夫を探った。その結果求められる観光人材のイメージにはいくつかのタイプがあること、それに対応するにはきめ細かいプログラムの立案と運営が必要であることが分かった。次に「地域ツーリズム塾セミナー」を2回行った。その結果、この学びの場が観光関連組織の職員にとっては蓄積された根本的な疑問に対する探求の場として機能すること、また大学生には課題探求の面白さを提供できること、そして望む企業に対する就活のモチベーションを向上させることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでにほとんど注目されていなかった地域観光人材のイメージやその実現のための教育について、一定の知見を蓄積できた。セミナーの開催が、観光関連組織の職員にとって蓄積された根本的な疑問に対する探求の場として機能した。セミナー受講生の中から、行政(1名)、地域企業(2名)、地方創生に関わる会社(1名)を輩出することができた。これは地域観光人材教育の有効性を示すものであった。セミナーの講演を通して、地元観光関連組織との関係を強化することができ、その後地域観光人材の素養を携えた卒業生の就職につながった。セミナーを通して得た地元との関係性の深化が、地域への就業と定着に寄与することが示された。

研究成果の概要(英文)：First, we conducted a survey of the JTB Group, Nara Prefectural University Internship, Faculty of Tourism, Wakayama University, and Osaka International University, and sought to understand the image of tourism human resources that companies are looking for, and explore ways to develop tourism human resources. As a result, it was confirmed that there are several types of images of tourism human resources that are required, and that detailed program planning and management are necessary to respond to them. Next, we held two regional tourism cram school seminars. As a result, this learning space functions as a place for employees of tourism-related organizations to explore accumulated fundamental questions, and provides university students with the fun of exploring issues. Moreover it was found that the motivation for job hunting at the desired company was improved.

研究分野：観光学

キーワード：地域観光人材教育 地域への就業と定着 ツーリズム塾セミナー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

今日地域の観光現場は深刻な人手不足で、とくに効果的な現場対処能力を持った人材を求めている。また特に地域においては、行政や企業に所属する社会人が改めて観光人材として活躍できるための学び直しの機会が切実に希求されている。加えて近年訪日外国人の訪問地が地方都市にシフトしていることによって、より地域の観光人材不足という課題が顕在化している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域における観光人材を育成するとともに、地域への就業と定着の適正化を図るための戦略を構築し、理論化することである。

3. 研究の方法

本研究では研究期間を2年毎に分け、2つのフェーズを設けて研究を推進した。

(1)第1フェーズ 2018年度～2019年度

まず最初に取り組んだことは、地域の企業や行政、NPOが現実にどのような人材を求めているのかというニーズを把握・再確認することである。方法としては対象を企業と行政に分けて調査を行い、各々が持つ観光人材のニーズの把握に努めた。具体的には、企業としてJTBグループにおける観光人材像とインターンシップの状況を調査し、同社が求める観光人材像を把握した。また奈良県における大学連合インターンシップの調査もを行い、参加状況やプログラム内容の特徴などを理解した。次に、他大学や他地域における先進事例を検討することにした。

事例として、和歌山大学観光学部における観光人材教育について、同大学より担当者を引き取り調査を行い、地域インターンシップをはじめとする同大学の特徴的なプログラムを確認した。2018年度にはこれらの調査研究を踏まえ3回の研究会を開催し、研究者間で知見を共有した。これらの調査・研究に加えて、これまでに研究分担者によって調査されてきた北海道大学を中心とした「北の観光人材」や九州ツーリズム大学、また新潟県越後妻有の「大地の芸術祭」や香川県直島の「瀬戸内国際芸術祭」など複数の芸術祭における人材教育から理解できた知見を基に、求められる観光人材に対する分析枠組みの発案と検討を行った。これらの研究の結果、それぞれの立場が求める人材像には、想像以上に違いがあるということが分かった。またそれを教育現場が共有できていないために、インターンシップや就業においてもミスマッチが起こっていることも事例研究から散見できた。各所における観光人材に対するニーズをより詳しく、かつ慎重に理解しなければならないことが分かった。2019年度は、求められる観光人材に対する分析枠組みの検討に着手した。また講師として大阪国際大学で地域志向教育に詳しい研究者を招き、地位志向教育の問題設定、アンチパターン、今後持つべき展望などについて討議を交わした。

(2)第2フェーズ 2020年度～2022年度

2020年度に「第1回 地域ツーリズム塾セミナー」を実施。受講者は3名で、地域の観光協会若手職員、地域まちづくりNPO若手職員、地域活動に興味を持つ大学生という内訳であった。セミナーは2回行い、1日目では2名の講師による講演と参加者個々の研究課題設定。2日目は受講者による課題発表という構成で、2回間に各指導担当(科研メンバー)による個別指導を行った。セミナーでは、参加者からのアンケートや要望も集約でき、また指導を行った科研メンバー側からの問題点の指摘や改善案なども明らかになった。

【開催日時】

第1回 2021年3月7日(日) 9:30～12:40

第2回 2021年3月27日(土) 10:00～12:00

第1回と第2回の間担当教員からの指導有り。

【実施形式】

オンライン

【講師(第1回のみ)】

北陸先端科学技術大学院大学教授 敷田 麻実氏

NPO ピアーズンピアーズ 藤崎 壮滋氏

【受講者】

A氏(U市観光協会職員) B氏(まちづくり系NPO職員)、 学生C(京都文教大学総合社会学部観光・地域デザインコース2回生)

【講演】「観光まちづくりにおける中間システムのマネジメント戦略」(敷田麻実氏)

主な内容: 中間システムの重要性和有効性、協働における注意3点

【講演】「地域観光における『協働』」(藤崎壮滋氏) 主な内容: DMOの機能と果たすべき役割

【希望課題発表】

課題1: 観光協会による着地型旅行商品の造成について(A氏)

課題2: with コロナ、after コロナにおけるイベントや祭りのあり方(A氏)

課題3：まちづくりにおける協働をコーディネートする人材や組織の課題（B氏）

課題4：量から質を求める観光への転換（学生C）

【指導担当メンバー】

課題1, 2（A氏）指導担当：山田、課題3（B氏）指導担当：堀野、課題4（学生C）指導担当：橋本

2021年度に「第2回 地域ツーリズム塾セミナー」を実施。受講者は4名で、いずれも地域活動に興味を持つ大学生であった。第1回同様、1日目は2名の講師による講演と参加者個々の研究課題設定。2日目は受講者による課題発表という構成で、2回の間各指導担当（科研メンバー）による個別指導を行った。

【日時】

第1回 2021年12月5日（日）9：30～12：40

第2回 2021年12月18日（土）10：00～12：00

第1回と第2回の間担当教員からの指導有り。

【実施形式】

オンライン

【講師（第1回のみ）】

京都文教大学副学長（当時）・教授 森 正美氏

お茶の京都 DMO：一般社団法人京都山城地域振興社 取締役総合企画局長 寺井 豊氏

【受講者】

学生D 京都文教大学総合社会学部 観光・地域デザインコース3回生
地域連携学生プロジェクト「商店街活性化隊 CanVas」代表

学生E 京都文教大学総合社会学部 観光・地域デザインコース3回生
地域連携学生プロジェクト「商店街活性化隊 CanVas」副代表

学生F 京都文教大学総合社会学部 経済・経営コース3回生
地域連携学生プロジェクト「商店街活性化隊 CanVas」副代表

学生G 京都文教大学総合社会学部 観光・地域デザインコース3回生
地域連携学生プロジェクト「KASANEO」代表

【講演】「大学における地域連携プラットフォーム型活動と実践による人材育成」（森正美氏）

主な内容：文化人類学的手法を活かした価値創造型教育

【講演】「観光を入口とした地域振興～お茶の京都 DMOの取組～」(寺井豊氏)

主な内容：人材の育成と活用、地域資源の磨き上げ、体験・滞在型観光の推進

【希望課題発表】

課題1：まちあるき×まちづくり - 健康づくりのためのまちあるきを活用し、地域課題の解決を目指す（学生D）

課題2：SNS が観光に与える影響（学生E）

課題3：地域情報発信のYouTube は本当に視られているのか？（学生F）

課題4：地元民が行きたくなくなる宇治（学生G）

【指導担当メンバー】

課題1（学生D）指導担当：橋本、課題2（学生E）指導担当：片山、課題3（学生F）指導担当：山田、課題4（学生G）指導担当：堀野

4. 研究成果

(1)第1フェーズにおける、求められる観光人材像の調査結果は以下の通りである。JTB グループでは求める人材は「自律創造型社員」であるとして、それは「新しい情報やスキルを継続的に習得し、自己成長への努力を惜しまない人」であり「物事や組織の課題を認識しその解決に向けて自律的・主体的に考え、行動できる人」と説明していた。そして入社後も「自律創造型社員」教育を継続するために、プラットフォーム「JTB ユニバーシティ」をグループ横断的に運営している。

次に奈良県における大学連合インターンシップでは、企業の求める人材のイメージを、観光地域づくりのリーダーとしての人材、観光商品サービスの企画開発に携われる人材、その具体的なメニューを提供するためのノウハウを持った人材、の3つに分類していた。そしてインターンシップ先がどのタイプの人材育成にマッチするかを、一覧表などのツールで見える化させる工夫を行っていた。

和歌山大学観光学部における観光人材教育では、行政を中心とした地域インターンシップを広く設定し、地域の観光について知見を得るとともに、学生の就業力の向上を図っていた。また専任職員を雇用し、きめ細かいプログラム運営を行い得る体制を構築するなど参考になる点の多い取り組みであった。

さらに大阪国際大との地域志向教育に関するセッションでは、大学側・地域側各々の課題、現状、今後の方向性が議論され、両者間で事前に、また連携の中間においても、協働・共創のイメージをどう構築するかが重要であるとの結論を得た。

(2) 第2フェーズにおける地域ツーリズムセミナーは、第1回は主に観光関係組織の職員に対して行ったが、以下のような点で成果があった。まずセミナーが、平素の業務によって蓄積された根本的な疑問に対する探求の場として機能したことである。日常で重視される接近戦的な対応力ではなく、根本的に何をなすべきかを考える機会になったとの感想があった。また特に指導担当となった科研メンバーと、課題発表～中間指導～再発表と継続的にディスカッションすることで、社会人ではなかなか得られない深い探求が実現できたと考えられる。また他の受講者の発表問答を間近で聞くことにより、視野を広げることができたとの感想もあった。

第2回は観光に関心を持つ大学生を対象に開催した。現役の大学教員と大学生ということで多少指導的な形で展開されてしまった嫌いはあったが、ゼミ学習や卒論指導のように、1つの疑問に対して複数回の指導機会を設け深く探求する中で、疑問に思ったことを俎上に挙げ探求することが面白いと感じたとの声が出ていた。加えて、参考に第1回セミナーの受講者3名の発表資料(問題提起)と、そこからのアドバイスを踏まえた上での改稿の結果を示したところ、自分自身が課題の再検討を行う際に非常に参考になったとのことであった。教員全員の手ごたえとしても、このセミナーを通して、学生自らが望む企業組織に対する就活へのモチベーションが向上してもらったことができたと確信した。それが地域就業での好結果につながったと考えられる。

(3) セミナー受講生の中から、地元行政(1名)、地域企業(2名)、地方創生に関わる会社(1名)への就業者を輩出することができた。これは地域観光人材教育の有効性を示すものであった。またセミナーの講演を通して、地元観光関連組織との関係を強化することができ、その後地域観光人材の素養を携えた卒業生1名の就職につながった。セミナーを通して構築できた地元組織との関係性の深化が、地域への就業と定着に寄与することが示されたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 橋本和也、遠藤英樹、堀野正人、金武創、森正美、片山明久、滋野浩毅、山田香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 191
3. 書名 人をつなげる観光戦略 人づくり・地域づくりの理論と実践	

1. 著者名 片山明久、森正美、家塚智子、宮本茂樹、松田敏幸、橋本和也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 219
3. 書名 旅行者と地域が創造する「ものがたり観光」 宇治・伏見観光のいまとこれから	

1. 著者名 森正美、澤達大、平岡聡、石田浩基、滋野浩毅、押領司哲也、西條辰義	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 199
3. 書名 実践！防災と協働のまちづくり 住民・企業・行政・大学で地域をつなぐ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	遠藤 英樹 (ENDO Hideki) (00275348)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 正美 (MORI Masami) (00298746)	京都文教大学・総合社会学部・教授 (34320)	
研究分担者	堀野 正人 (HORINO Masato) (30305742)	二松学舎大学・文学部・教授 (32664)	
研究分担者	橋本 和也 (HASHIMOTO Kazuya) (90237933)	京都文教大学・総合社会学部・名誉教授 (34320)	
研究分担者	山田 香織 (YAMADA Kaori) (50731832)	東洋大学・社会学部・講師 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関